

## 様式 4

令和元年度 日 立 市 教 育 研 究 会 先 進 校 等 調 査 派 遣 研 修 報 告 書

日 立 市 立 河 原 子 中 学 校 教 諭 浅 井 香

- 1 派遣期日 令和元年10月19日(土)
- 2 研修先 学校名(会場名) 浜松修学舎中学校・高等学校  
所在地 静岡県浜松市中区向宿2-20-1  
<http://www.shugakusha.ed.jp/17873.html>

### 3 研修内容

- (1) 研修会名「笑顔になる『ピア・サポート講座』第3回」

研究のテーマ

「ピア・サポートを生かした学校づくり」

- (2) 研修内容

- ①アイスブレイク
- ②質問技法(閉じた質問・開いた質問)
- ③ブレインストーミング
- ④問題解決の5つのステップによる演習

相談者・ピアサポーター2名(メインとサブ)・記録者の4人1組で

### 4 研修会に参加して

- (1) 「ピア・サポート」とは

ピア・サポートとは「学校教育活動の一環として教職員の指導・援助のもとに、学生たち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を各学校の実態に応じて設定し、そこで得た知識やスキルをもとに、仲間を思いやり、支える学習活動」である(日本ピア・サポート学会定義)。

- (2) 研修の詳細

- ①アイスブレイク

2人ペアになり、お互いの共通点を探して話をした。

- ②質問技法「開かれた質問」と「閉ざされた質問」

次の1~10を開かれた質問(O)と閉ざされた質問(C)に分類した。

- 1 こんにちは。今日は寒いですね。どうしたの?
- 2 ここへは一人で来たの?
- 3 それで、お父さんはそのことをどう思っているの?
- 4 お母さんにはもう話したの?
- 5 試験が近づくと、やっぱり学校のことが気になるの?
- 6 ファミコンなんかで遊ぶ友達いるの?
- 7 担任の先生のことをどう思うの?
- 8 学校に行かずにずっと家にいるってどんな気持ち?
- 9 そこのところをもうちょっと詳しく話してくれる?
- 10 来週の木曜日、今日と同じ時間に来てくれるかな?

- ③ブレインストーミング

グループで一つのお題をもとにできるだけ多くの答えを出した。グループ内で多くのアイデアを集めると共に、グループ内の親睦を深めた。

- ④質問解決の5つのステップによる演習

(相談者・ピアサポーター2名(メインとサブ) 記録者の4人1組で)

〈5つのステップ〉

1. 課題は何か  
(悩んでいること、困っていること、など問題を明確化する)
2. 願い (どうなりたいのか)
3. 解決策を出す  
(実現性にとらわれず、ブレインストーミングなどでできるだけ多くのアイデアを出す)
4. 解決策を検討する。  
(3で出たアイデアのプラス面、マイナス面を考える)
5. 具体的な行動計画を立てる。(相談者が解決策を選択する)

4人1組になり、1～5の要領で演習を進めた。私は相談者役になった。自分が本当に相談したい内容でよいということだったので、学校内でピアサポートをどのように普及させていったらいいか相談をした。問題解決の手順がよく分かっただけでなく、校内のピアサポート活動をどう進めていくか、具体策を提案してもらうこともできた。

## 5 感想

### (1) 演習の感想

②の質問技法については、よく「閉ざされた質問ではなく、開かれた質問をしよう」と言われるが、実際はなかなか話さない相手に開かれた質問をするのは難しいと思っていた。今回の研修で、「慣れるまでは閉ざされた質問でよく、話すことに慣れてきたら開かれた質問にするとよい」ということが分かり、安心した。また、私は一つの質問から話を広げるのが苦手なのだが、開かれた質問で相手が答えた後に「～というところ？」「もう少し詳しく話してくれる？」「エピソードを教えてください」という切り返しの仕方は話を広げていくためにとっても有効であると思った。

④の4人1組で課題を解決する演習では、5つのステップに従って話し合った。悩みや困っていることを聞く段階では、ピアサポーターは相談者の困っている気持ちに共感し、とことん話を聞く。しかし、課題が明確化された後は、「課題を解決する」ことだけを考えて解決策だけをシンプルに考え、「なぜそうなったか」といった、悪者探しはしない方がいいということだった。我々は生徒の相談に乗るとき、原因をはっきりさせたくなくなってしまいがちだが、マイナス思考の会話をするより、明るい希望をもてる会話をした方が、問題解決が近くなるということに大変納得した。

### (2) 今後どう生かしていくか

本校ではこれから1年生を中心にピアサポート活動を展開していく予定である。ピアサポーターを選出して時間を決めて相談活動を行う形式ではなく、学年・学級全体で繋がり・絆を深めるためのコミュニケーションスキルトレーニングを行い、生徒全員のピアサポートマインドを高めるようにしていきたい。

今後は、まずスクールカウンセラーから「よい話の聞き方」の研修を受け、それから学級でピアサポートを生かしたコミュニケーションスキルトレーニングを行っていきたい。トレーニングは、「人間関係をほぐすプログラム」→「学級の結びつきを強めるプログラム」→「聞く力を身につけるプログラム」→「伝え合う力を身につけるプログラム」→「問題解決の力を身につけるプログラム」→「社会で豊かに生きる力を身につけるプログラム」と、段階を踏んで実施していきたい。

今回の研修会に参加し、悩みや困りごとを解決するためには、話の聞き方や手順もとても大切だが、話を聞く側がプラス思考や前向きな気持ちをもつことで相談者の気持ちを問題解決に向けて前向きに進んでいけるようにしていくことがとても重要だと思った。そのようなプラス思考の連鎖を生徒達の間につくっていきけるようにしたい。